

令和5年度 江戸川区立春江中学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自ら進んでよく学び、協力して働く生徒</li> <li>○規律を守り、責任を重んずる生徒</li> <li>○心身ともに健康で、思いやりのある生徒</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目指す学校像</li> <li>目指す児童像</li> <li>目指す教師像</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○未来を主体的に生き抜く力を育む学校</li> <li>○夢や志を抱き、自分の力で困難に立ち向かいながら、前に進むことができる生徒</li> <li>○深い専門性をもち、自ら改善・向上を目指し、授業力・指導力・情熱・使命感・実行力のある教師</li> </ul>
前年度までの学校経営上の成果と課題	<p>&lt;成果&gt;・教職員が、生徒に合わせた支援型指導や迅速な対応により、落ちこみ学校生活に加え、何事にも一生懸命に取り組む生徒が多い。</p> <p>・校内研修に加え、自己研鑽に励むため、学校全体でのデジタル化が進んでおり、授業でもICTを活用する教員が多い。</p> <p>&lt;課題&gt;・生徒自身が学びに向かうこと、自己の課題を発見しその課題を解決するために主体的に取り組む、思考・判断・表現する力を育成させること。</p> <p>・現状は、不登校生徒の割合が高い。よって、エンカレッジルームを拡張して、学びの場や居場所を確保して学校を「みんなが安心して学べる場所」とする。教育相談委員会を充実させ、SSW、SCと連携を図り、実効性のある取り組みを行い、不登校生徒の継続数の減少、新規数の抑制を図ること。</p>		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価	年度末に向けた改善策	
				取組	成果			
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒一人ひとりが「何のために学ぶのか」という学ぶことの意義を実感できる環境を整える。</li> <li>○自己の目標を選択・設定して、その目標を達成するために、自発的、自律的、かつ自らの学びへ行動できるようにする。各授業にて「めあて」などの学習の目標や内容を明示する。</li> <li>○各教科の授業では、話し合い活動の協働的な学びや問題解決学習・探究的な学習など創意工夫を生かした授業を展開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○定期テスト前の朝学習でデジタル教材「ミラシード」を取り組み、「児童生徒の学力向上を図る調査」の「確実」であるようになるまで繰り返し練習できるようにしておく。</li> <li>○項目において肯定的な回答を70%以上にする。</li> <li>○令和5年度「全国学力調査」の全ての教科で平均正答率を3%以上回る。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒向けアンケートでは「自ら進んで、学びたい」という項目では、肯定的な回答が7月18日、19%であった。12月の回答では85.5%と激増であった。デジタル教材、単元テストなど特色ある教育活動を展開したことは成果であるが、生徒が学習・学びへ向かう姿勢が向上するまでには至らなかったことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学力向上はどのも重要な事項ではあるが、いつまでも生徒が「楽して」得られるので、自分良く頑張れるという思いを、先生方も工夫して授業をしている。タブレットも使って現代的で素晴らしいと思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業の中で、考えを伝え合うことは、学びを深める大切な要素である。様々な考えを受け止め、何をも伝え合える雰囲気を作り出し、対話を通して学びを深める授業にする。</li> <li>○学習課題の設定については教職員一岡、校内研修を実施しているが、今後も更なる研修を重ね、生徒の探求心を向上させることができる。課題設定を目指していく。</li> <li>○来年度は自己管理ノートを新規に始め、生徒が主体的に学びに向かうよう、生徒が主体的に学びに向かうよう</li> </ul>
	<読書の読める充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○探究的な学習を進めるために、課題を自己設定しその内容を学び、問題を発見し、情報収集し、問題解決に向けての読書効果を効果的に整理・分析し、自分の考えを論理的にまとめて表現できるように、調べ学習・POP作りやビジュアルなどを実施する。</li> <li>○図書図書館の利用を計画的に実施し、調べ学習や、探究活動の場として、図書館員と連携し学校図書館の効果的な活用を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読書科については、ポップの制作・ビジュアルを通して、読書の有用性を体験・体得させ、生徒自身の考えや書き方を広げている。</li> <li>○調べ学習コンクールと教科横断型学習を実施。課題解決型の探究学習を推進する。</li> <li>○「図書館を使った調べ学習コンクール」や「図書館を使った調べ学習コンクール」などを実施する。</li> <li>○「図書館を使った調べ学習コンクール」や「角川文庫POPコンクール大賞」などに応募し、全国規模の取り組みで入賞できている。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○2月にも2学年がクラス単位でビジュアルを制作するなど探求的な学習を進める取り組みを充実させることができた。</li> <li>○「図書館を使った調べ学習コンクール」などがあり、区長賞、金賞、銀賞を受賞するなど生徒が表現力や探求心の育成ができてきていることが成果である。また、POPの制作など図書館を計画的に活用して自らの探求的な学習を進めていくことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図書館のレイアウトがいつまでも立派である。生徒だけでなく魅力的なものは、必ずある。生徒にも積極的に読んで取り、どんどん図書館を活用してもらいたい。</li> <li>○区長賞おめでとうございます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○POP制作・并論大会を生徒が継続的に取り組むには、中間の発表も必要で、自分と向き合う機会を必要として、深く考え授業を目指していきます。</li> <li>○本の良さや魅力を理解させたり、図書館の貸し出し、利用率が向上するような取り組みを継続して実施していく。</li> </ul>
	<運動意欲や基礎体力の向上> ・運動意欲の向上や健康の増進に向けた取組の充実 ・充実した食育教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保健体育科の授業は男女共習で行い、自身の健康に関心を持ち、生徒が主体的に取り組む。</li> <li>○「体育理論」を通してスポーツの効果や方法を理解させる。</li> <li>○実生活と照らし合わせながら、生涯スポーツに関心を持ち、健康の保持増進と体力の向上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新体力テストの判定「DE層」を10%以下にする。</li> <li>○運動量は授業の50%を確保し、体力向上を図る。</li> <li>○共習により、性別にかかわらず自分や仲間と心と体に向き合っており、体を動かす楽しさや心地よさを味わいながら、心と体をほぐしたり、体の動きを高めたりする方法を習得させる。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新体力テストにおけるDE層は10%を下回ったことは成果である。しかし、合計得点は全国平均より低く、東京都の平均とは同じ数値に達していない。学年が上がると平均値は上昇している。しかし、新規成果が、全体的な数値が低いことが課題である。</li> <li>○男女の共習を取り入れたことで異性を尊重したり、協力して学習する力が備わってきたことが成果である。共習すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎体力・健康に関する知識は生きていく上で大前提となる項目であること認識し、授業開始時に補助運動を継続して実践していく。</li> <li>○共習の特性を生かして異性を認識し、尊重するなどの育成を身につけさせる。</li> <li>○家庭科授業と連携し、食育の推進を図る。</li> </ul>	
共生社会の実現に向けた教育の展開	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実 ・ボランティア活動の醸成を促す	<ul style="list-style-type: none"> <li>○黒板を授業のためにだけ使用する。生徒に必要な連絡事項は背面黒板にする。具体的な指示などは生徒が学びや、通過しやすいように行う。</li> <li>○エンカレッジルームでは自分の取り組み課題など居場所やできることが増える環境としていく。</li> <li>○地域と生徒が「つながる」ことで生徒の地域愛や、地域貢献や地域活性化に貢献を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が居場所など環境として学校・クラブ・教室とも連携していく。将来的には社会的な自立ができるよう声掛けや支援をするための情報共有を週に1回おこなう。</li> <li>○不登校児童・生徒の新規出現率を東京都平均より下げようとしている。</li> <li>○町会との交流、防災訓練、運動会などのボランティアに参加する延べ人数を15人以上にする。</li> </ul>	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○エンカレッジルームを拡大したことにより利用する生徒が増え、欠席率なども、登校できない生徒への支援を厚くすることができたことは成果である。しかし、新規の不登校生徒発生は目標達成できなかった。</li> <li>○ボランティアの参加は目標を達成することができた(延べ人数)は大きな成果であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校生活の中で、困っている仲間を助し、みんなを支える場面を見るために、温かい気持ちにならせてもらっている。</li> <li>○ボランティアに参加する生徒が多く、また意欲的に手伝ってくれることは本当に誇らしく思う。中学生の力は大きいことが今年の活動で良かった。来年度も引き続き参加をお願いするので連携をお願いします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒それぞれの個性に合わせてエンカレッジルームを充実させ、生徒が健康増進できるような取り組みを指導していく。</li> <li>○地域との共生、地域貢献を意識させ、「地域とのつながり」を大切にしていく生徒の育成を継続していく。</li> </ul>
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒と寄り添い、関係性構築と連携しながら、「どこにもつながりがもてない不登校生徒」をゼロにする。</li> <li>○カウンセリングマインドをもって生徒の悩みや心配事について生徒や保護者の相談の寄り添って対応する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の居場所づくり、学びの継続をモットーにして不登校生徒の新規出現率を2.73%以下、継続出現率を3.03%以下にする。Hyper-QUで実施した結果をもとに講師を呼んで校内研修を1回実施する。研修を経て生徒理解、学級理解を深めていく。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校で得た知識や力や高めた自己肯定感を高校でも大切に、社会に出てからのコミュニケーションにつなげてほしい。</li> <li>○OSNSなどがトラブルの原因になるケースもあると聞いている。地域としても生徒が情報モラルを学ぶ機会を創出していくことを考えていかなければならない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICT機器の活用については、情報モラルを指導しながら、機器の取り扱いだけでなく、必要に応じて自由に活用できるよう工夫していく。</li> <li>○エンカレッジルームの生徒もデジタル教材やミラシードで学習するなどできることを増やしていく。</li> </ul>	
地域に広く開かれた学校(園)の展開	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Tetoruのメール配信や学校ホームページの充実をさせる。</li> <li>○年4回の学校公開、授業参観など保護者が学校の様子や教職員に関わる機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校ホームページを1週間で3回更新し、校内の様子や学校の取り組みを保護者や地域へ周知させる。80,000閲覧数を目標とする。</li> <li>○学校公開を年に4回実施し、保護者会や文書を通して本校の教育活動を周知させる。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校や学年の様子をHPを通して保護者や地域へ情報提供している。閲覧数は昨年度を下回っているが、保護者からは感謝の声を聞くことがあり成果はできている。</li> <li>○学校公開を通して日頃の学校の様子や生徒の状況を参観できる機会を設けた。またtetoruで様々な文書を配布して情報の公開に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校HPに日頃の学校の様子や取り組みを掲載していく。</li> <li>○Tetoruを使って、学年便り、保健便りを配布して生徒の活動を知らせる。</li> <li>○既設活動がイデオラインを遵守し、生徒により良い活動になるよう実践していく。</li> <li>○学校公開、合唱コンクール、運動会など開かれた学校作りを引き続き継続していく。</li> </ul>	
特色ある教育の展開	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校評議員会の実施、学校公開を通して「開かれた学校」づくりを目指す。</li> <li>○学校行事(運動会、合唱コンクール等)において学校評議員と連携を深め、教育活動の改善を図る。</li> <li>○地域ボランティア活動を通して、生徒のボランティア活動の醸成と地域との「つながり」を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年に2回、土曜日の授業公開で学校評議員に学校の様子や生徒の活動状況参観してもらい、その後の評議員会で学校の現状と課題について共通理解を深める。</li> <li>○地域団体が来校し、生徒を直接指導する場を設定する。地域を巻き込んで生徒を育成するためのボランティアを5回</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校評議員会での意見交換を参考にして図書館の充実、ボランティア活動のさらなる充実を図る。</li> <li>○合唱コンクールをワークホール船橋で実施し、保護者や地域の方が観覧しやすい状況にして好評だったことは大きな成果である。これらから開かれた学校を目指した教育活動をしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ボランティア活動の参加、防災教室の実施に加えて、合唱コンクールもワークホール船橋で実施するなど保護者や地域に開かれた学校となっているのはとても良いこと、来年度もお願いしたい。</li> <li>○合唱コンクールの実施は成功だった。保護者の入れ替え、生徒の休養時間など課題ができた。それらを修正・改善することで来年度はさらに充実した行事と</li> </ul>	
	<教職員の働き方改革の推進> ・学校における教職員の働き方改革プランの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校における働き方改革プランに基づく取組の実施をする。</li> <li>○削減できる行事や校務を見直し、生産性の向上を図るような精査をして働き方を進めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○行事の案内、月行事予定など従来の紙で配布していたことを、「tetoru」で配信して時間を削減する。</li> <li>○ミラシードの特性である自動採点を活用し負担を軽減させる。</li> <li>○基準の定時外在校時間(45時間)を上回る教員を0にする。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教職員の勤務時間が有効になるようにtetoru配信、SSSの活用ができていた。校務や行事の精査をしたが、実現までには至らなかった。</li> <li>○定時外在校時間(45時間)を上回る教員を0にすることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○タブレットの導入により、学習面で個人差が生まれていないか心配していたが、授業の様子からタブレットを生徒が効果的に活用できているのが安心した。</li> </ul>	
	<教育のデジタル化の推進> ・生徒の個別最適な学びの実現に向けたICT機器の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個々の生徒に応じたきめ細やかな指導の展開</li> <li>○生徒がタブレットを活用して発表したり、話し合ったりする力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○オンライン授業の実施、ミラシードの活用、ICTを活用した課題回収の実践を通してデジタル化を推進する。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○デジタルツールの活用は江戸川区の中学校に比べて進んでいると評価されている。またベネッセの校内研修を活用して、教職員の知識や技術の向上につなげた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○春江中学校のICT環境や生徒が利用している回数が多いことを知り時代に合わせて個別最適なデジタルツールを活用して活用できていることが素晴らしいと思った。引き続き継続してもらいたい。</li> </ul>	